



～「エスコープまつり2024」報告～ ともに課題に立ち向かい、 いのちをつなぐ暮らしを未来に！

10月27日(日)、堺市産業振興センター(堺市北区)のイベントホールにて、「エスコープまつり2024 気候危機 ～いのちをつなぐ暮らしを未来に!～」を開催しました。490名ほどの来場があり、全国28団体の生産者と組合員とその家族、友人ら総勢600名以上が一堂に会する、にぎやかなまつりとなりました。



生産者ごとに消費材の試食や購入ができるブースを設置。どのブースにも人が並び、生産者のこだわりや消費材の製造過程や食べ方などについて生産者と組合員が話し込む光景が見られました。今年はこのまつりを通して、生産者と組合員が気候危機が及ぼす影響について共に考え、未

来のために行動を起こすきっかけとすることを目指し、各ブースで気候危機による生産現場への影響や対策などについての掲示もおこない、アピールしました。

今夏も猛暑が続いた影響で、農作物などの収穫量が減ったり、原料調達が難しくなったりしています。特に今年は熱帯夜が



続き、昼夜の気温差がなかったことが作物の生育に影響を与えているようでした。いつもおいしくいただいている消費材の生産現場でどのようなことが起こり、生産者がどのような対策をされているのか、生産者から直接聞く機会になりました。(2面参照)



でんきコーナー

今年は、持続可能で原発に頼らない自然エネルギー100%供給を目指す「生活クラブでんき」への切り替えを呼びかけるためのブースを設けました。「一般社団法人 生活クラブエネルギー事業連合」の知野二郎さんに来ていただき、電気料金のシミュレーションや相談の対応をしていただきました。

ブースを訪れた方は、持参した電気の検針票やスマホの専用アプリなどを見ながら熱心に話を聞いていました。当日は3名が「生活クラブでんき」の切り替えをされました。生協加入と同時にでんきの切り替えをされた方もいました。

また、でんきコーナーでは、気候危機に対して各自ができることを宣言する「できるよ宣言」を集めました。「自動車を使わず、自転車や徒歩で行動する」、「エスコープ大阪を利用し続ける」などの宣言が来場者から寄せられました。

子ども遊びコーナー

子ども遊びコーナーにはたくさんの親子が集まりました。「酒井産業(株)」の木のおもちゃのコーナーにはたくさんの積み木が用意されていて、各々好きなものを作っていました。中には自分の背よりも大きなタワーを作っているお子さんもいました。「兵庫県漁連」の「ちりめんモンスターを探せ」のコーナーでは、虫眼鏡も使って真剣にモンスターを探していました。エビやタツノオトシゴなどちりめんの中に混じっている小さなモンスターが見つかったと、親子で盛り上がっていました。子どもたちだけでなく、大人も一緒に楽しむことができました。



参加者の声

- 子どもがぜんぜん食べないので、「エスコープまつり」を楽しみにしていました。ここでは全部食べてくれます。
- 各生産者のさまざまなサステイナブルな取り組みを知ることができ、応援したい!! とたくさん買ってしまいました。
- 普段好きで利用している消費材の生産者の方のお顔を拝見できて良かったです。消費材のことを直接お聞きし、ますますファンになりました。

エスコープまつりではマイ食器の持参を呼びかけるなど、毎年ごみの減量を目指しています。今年は会場にゴミステーションを設け、分別もしっかりおこない、ごみを減らすことができました。

私たち組合員と生産者は食べ手と作り手という関係だけではなく、消費材を通して、共通の課題を一緒に解決していくことができる関係です。次世代に安心して過ごせる暮らしをつなぎ、未来にいのちをつないでいくために、これからも一緒に考え、課題に立ち向かっていきたいと思います。

大阪市南・中河内地域

参加生産者 ●コーミ(株) ●タイヘイ(株) ●伊賀越(株)
●日本果実工業(株) ●中井製茶 ●(株)生活クラブエナジー

「気候危機は、消費材の原材料確保や品質に影響を及ぼしている」という報告がどの生産者からもありました。コーミのケチャップ用のトマトは露地栽培のため、日焼けや過熟などの影響が出ています。醤油を製造するタイヘイは、国内の大豆や小麦の栽培可能範囲が狭くなってきていることに危機感を持っています。伊賀越では自社農園で原材料を確保する対策をとっています。



マグロやサバの缶詰を扱う日本果実工業からは、海水温の上昇により、国産の原材料確保が難しくなっているという報告がありました。中井製茶からは今夏の暑さが秋の芽や来年の作柄にどのような影響を与えるのか心配しているという話がありました。

河内長野・大阪狭山地域

参加生産者 ●コーヒー焙煎ワーカーズ珈琲工房まめ福
●(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ) ●(株)ミサワ食品
●菜食ファーム ●豊共園 ●酒井産業(株)

海外の産地では雨季や乾季のサイクルが不安定なため、まめ福やATJはコーヒー豆やエコシュリンプなどの安定的な確保に不安を感じています。ミサワ食品では暑さのため製造過程でグルテンが扱いにくくなっていることや、「脱プラ」をすすめて紙パッケージ化に取り組んでいるとの報告がありました。菜食ファームの野菜や豊共園のみかんは、収穫時期がずれてきており、年々作りにくくなっているという話がありました。酒井産業は、木を切り出し植林する森林の循環を大切に、地球過熱化の原因となる温室効果ガス削減につなげています。



南河内地域

参加生産者 ●(有)大矢商店 ●(農)上和田有機米生産組合
●竜王町稲作経営者研究会 ●針江げんき米栽培グループ
●山名酒造(株) ●(株)角谷文治郎商店

大矢商店では工場内で使う電気は「生活クラブでんき」でまかない、太陽光パネルも設置しています。上和田有機米生産組合は発足当初から循環型社会を提唱し、環境負荷を減らす農業に取り組んでいます。竜王町稲作経営者研究会は、高温対策として『竜おうみ米』の肥料を増やしましたが期待していた成果が得られませんでした。針江げんき米栽培グループでは、バイオディーゼル燃料や太陽光パネルを導入して環境に配慮した農業を実践しています。山名酒造では契約農家からの米の入荷が減ってきている中、今年の米不足で酒米から主食用米へ栽培を移行する農家が出てくることを懸念しています。角谷文治郎商店では主原料の米が気候の影響を受け、品質を維持しながらみりんなどを作っていくことが今後の課題です。



エスコープまつり2024終了後の生産者交流会報告

作り手と食べ手で 取り組む 気候危機の課題

エスコープまつり2024終了後、生産者とエスコープ大阪の活動推進者(組合員、職員)計141名が交流をしました。地域委員会ごとに集まり、生産現場での気候危機の影響や対策について推進者が学び、今後の活動に生かします。気候危機に立ち向かう手段として「生活クラブでんき」への切り替えを検討するという声が生産者からも挙がり、共に課題解決に向かう一歩を踏み出す交流会となりました。

(報告者:エスコープまつり2024実行委員長 山路登葉)

泉北ニュータウン地域

参加生産者 ●(株)生活クラブ関西・ミート ●新生酪農(株)
●(株)ウイナークラブ ●(株)丸本・オンドン農業協同組合
●農業生産法人(有)王隠堂農園

暑くなると牛はエサを食べなくなったり、お乳が出なくなったりします。牛舎の屋根に散水したり、鶏舎の通気性を良くするなど、畜産関連の生産者は牛、豚、鶏への暑さ対策に気を配っています。また生活クラブ関西・ミートや新生酪農は「生活クラブでんき」を導入、ウイナークラブは昨年の電気使用量20%削減を達成し、気候危機対策をしています。



王隠堂農園では昨年の夏の暑さで梅の花が咲かず、不作となりました。また昼夜の気温差が少ないため、緑色の梅が増えました。梅の栽培地域を奈良県から三重県に移しています。

泉州地域

参加生産者 ●兵庫県漁業協同組合連合会 ●京都府漁業協同組合
●三重県漁業協同組合連合会 ●みえぎょれん販売(株)
●(株)高橋徳治商店 ●(株)豆伍心

兵庫県漁連は、気候危機の影響を今は特に感じていないが、このまつりで不安の声を聞いたので情報発信していきたいとのことでした。京都府漁協はカタクチイワシの水揚げが少なく、「煮干し」の消費材企画を今年は中止



せざるを得なくなりました。三重県漁連では若い生産者を中心に「みんなで捕る」という感覚を持っているため、その考えを共有しながら持続可能な水産業を目指しています。みえぎょれん販売は昨年、値上げを余儀なくされましたが、海水温の上昇が海苔の養殖に悪影響を与えています。高橋徳治商店では、これまで獲れていた原材料の魚が獲れなくなり苦戦しています。豆伍心では、大豆の入荷が減少しているため、作付け面積を増やす努力をしています。

泉州地域

ライフプラン講座

10月31日(木)
浪切ホール(岸和田市)

泉州地域理事 宮田 恭子

知りたいことを学習できた！
関心が高い講座でした



言葉で話されるので理解しやすく、皆さんメモを取りながら熱心に聞き入っていました。質疑応答の時間には講師からそれぞれの状況に合わせて答えていただき、参考になったようです。

参加者からは「投資信託を始めるには自分で考え、知り、選択しなくてはいけないことがわかりました」

「とてもわかりやすく、ご自身の体験などを交えて話していただけたのでリアルで面白かったです」「お金の講座を無料で学べる機会が今までなかったので、良かったです」と感想がありました。

共済も組合員が作った消費材のひとつです。加入者が増えると、原資が増え、加入者の声を反映しやすくなって保障内容がさらに良くなります。一緒に育てていきましよう。

泉北ニュータウン地域

秋のみそづくり

11月2日(土)
みんなのリビングくるり
(和泉市)

泉北ニュータウン地域理事
真柄 恭子

みんなで楽しくみそづくり！



するのに半年以上かかると聞いて衝撃を受けている人もいました。毎年作っているベテランや初めてみそ作りをする人もいて、和気あ

いあいと進められました。

みそのお当番の内田さん、小林さんのご自宅と本部、光明池にある「みんなのリビングくるり」の4か所でおこない、31名が参加しました。今年は店舗組合員の方も久しぶりに参加することになったので、参加者が増えました。みそづくりの企画は日本の発酵文化を継承しようと、奈良県吉野の「梅谷味噌醤油(株)」からゆでた大豆を運んでもらい、春と秋の年2回、30年以上続いています。

ミンサーという機械に大豆を入れると、モンブランのような形につぶれて出てきます。ほとんどの方が自動のミンサーを選ばれますが、「おぼあちゃんぐるぐる」と回していたのを見ていたので「若い方が手動のミンサーでつぶしていきました。初めて作る人の中にはみそは仕込んだらすぐに食べられると思っていて、発酵

「ラップの代わりに薄い酒粕をのせておく」と水分を吸ってカビが生えない」とベテランの方から教えていただきました。

皆さんのみそがおいしく出来上がりますように。また、春も一緒につくりましょう。

エリカ読書会が大きな支えに

エリカサークル

原則として第1木曜日午前
金剛公民館(富田林市)など

エリカサークル代表
大久保 佐知子



民グループとして立ち上げました。以来毎月一回の読書会、定期的なオイリュトミールレッスンを続け、年に一度ドイツからの講師を招いて講演会とワークショップをおこ

「エリカサークル」は1998年にNHKで放映された番組「シュタイナーの世界」を見てシュタイナーに関心を持ったメンバーが集まり、シュタイナーに学ぶ市

なっています。活動の軸になるのは毎月の読書会

で、ひとりではなかなか読めないシュタイナーの著書を取りあげて読み進んでいます。シュタイナーの人間観、世界観は一般的な人間理解とは異なりますが、気質の捉え方や、人の一生のそれぞれの段階の特徴と課題など、興味深く示唆に富んでいます。読書会ではつい横道に逸れて、家族や友人、知人との間の愚痴や鬱憤を吐き出す場になることがあります。でも、気の合わない人をどう理解し、意見の違いにどう折り合いをつけるか、シュタイナーの気質の考え方その他を知ると見方が変わってラクになる場合もあり、大いに励まされてきました。

20年余この会を続けてきて、当初は子育て中で小さかった子どもの教育が問題意識としてあり、「シュタイナー教育」が学びの中心でした。その子どもたちもすっかり大人になり、今では私たちがとって、親や連れ合いの介護、孫育てが主要な問題意識となっています。また、自らの老いにも向き合わなければならない年齢になってきました。老年期をどう生き、どう死を迎えるかについても、読書会での学びやお互いの意見交換が大きな支えになっています。

大学を卒業してからエスコープ大阪ひと筋です



橘谷 佳昭(37歳)
エスコープ大阪在籍年数15年9ヵ月
【共同購入フロア・拡大チーム】

私は大学卒業後、エスコープ大阪に入協しました。就職活動で悩んでいた時に、母が新聞の募集欄から見つけてくれたのがきっかけです。配達で買物物が大変な方の役に立てるのは働きたいがありそうだと思い、応募しました。入協当初は、生協はどことも同じだと思っていましたが、配達先の組合員の皆さんに消費材の使い方をいろいろ教えてもらい、生協への理解も深まっていきました。

配達先で教えてもらったこと
現在3人の子宝に恵まれ、共働きということもあり、日々がバタバタとあつという間に過ぎていきますが、毎日が充実しています。今は組合員を増やす拡大業務をメインに仕事をしていますが、たまに配達の欠員が出てヘルプで配達に行く時に組合員の皆さんに会えるのが楽しみです。顔を見かけたときには、おすすめ消費材を教えてください。

紹介します!!
うちの地域の
組合員さんです



妊娠を機に
食に対する考え方が
変わった

本多 圭子さん
[堺市街地域]



菜セット」。地場で作られているので新鮮で、おいしいからだそうです。小学4年生になったお子さんは「ウインナークラブ」のソーセージ類が好きとのこと。

お子さんが小学校に入る前には、堺市街地地域委員会が主催の「子育てひろば」に参加されていました。今年10月に開催

お子さんを妊娠された時、京都に住む親戚から生活クラブの話聞き、エスコープ大阪に加入されました。それまでは食に対してこだわりはなく、「おいしい」と聞いたものや、見て「おいしそう」と感じたものを食べていたそうです。しかし、子育てをしていると自分が食べたものが母乳を通して子どもの体の中に入っていくのがわかり、食べたものが人を作っていると実感し、食に対する考え方が変わったそうです。

「ちりめんモンスターを探せ」コーナーのお手伝いをされました。その時にあまり見つけられないタツノオトシゴを2匹も見ましたと喜んでおられ「とても楽しかったので、また来年も手伝いに来たい」と言われていました。これからもぜひ親子で生協活動を楽しまれ、周りにも広げてほしいと思います。

聞き手 吉田 正美
(堺市街地地域準備会担当理事)



第5回
理事会報告 <11月1日>

【9月度決算報告】

- 供給高 2億5,346万円(前年同月比104.1%)
- 組合員数 18,664名(前月比+40名)
- 一人当たりの出資金 92,959円

【10月の放射能検査結果】

10月は連合消費材567検体、関西消費材5検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①ランサムウェア対策システム導入の投資について

【協議事項】

- ①理事会運営について
- ②生活クラブ自主基準「農業基準」における「加温・養液・電照栽培」規定改定への単協意見
- ③生活クラブ関西6生協セット野菜統一に向けた理事委員研修
- ④2024年度「よやくる みかん」取り組みまとめに向けて
- ⑤2025年春グリーンシステムキャンペーンへの意見提出
- ⑥「W.Co.WITH」によるカタログ・チラシセット作業委託料の改定
- ⑦「街づくり夢基金」のダイレクトメール(アドレス印字)と配布について

【報告承認事項】

- ①「株式会社三協運輸サービス」との業務委託契約の締結
- ②「FROM FARM」援農活動への協力について
- ③福祉たすけあい活動支援制度中間報告
- ④2024年度上期サークル活動報告および2024年度下期サークル活動計画について
- ⑤中間監査報告書

編集後記

2024年もあとわずかになりました。年始に今年やりたいことを決めましたが、できたこともあるけれどやり残したことの方が多いです。来年こそは！リベンジします。(Y)



生産者紹介

いっしょに創る未来



父、夫、妹夫婦、社員たちと一緒にみりん造りをしています。市販の本みりんには醸造

私たちは、以前から生産者と組合員が直接顔を合わせて議論し、一緒に消費材を作り、運動をすすめてきましたが、生協設立から50年以上経ち、世代変わりしている生産者も増えてきました。そこで、このコーナーでは次世代の生産者や「近畿親生会」の生産者に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

「三河みりん」を製造している角谷文治郎商店がある愛知県碧南市は醸造文化が盛んな土地柄で、昔は酒蔵も多く、その酒粕を使って粕取り焼酎を造り、みりんを造ったのが角谷文治郎商店の始まりです。「角谷文治郎商店のみりんを使うと料理がおいしくなる」など声をかけてもらうことが励みになり、「みりんの伝統を継承していきたい、そして子どもが安心して食べられるものを守っていきたい」という思いで、3代目となる父、夫、妹夫婦、社員たちと一緒にみりん造りをしています。

笑顔が増える
幸せのかくし味

という思いで、3代目となる父、夫、妹夫婦、社員たちと一緒にみりん造りをしています。市販の本みりんには醸造

用アルコールや人工甘味料を加えているものもあり、そういうみりんは数カ月で出ま上がり、大量生産が可能です。角谷文治郎商店のみりんは自社で精米した提携生産者のもち米と米麴、米焼酎のみを原料に1年以上手間ひまかけて「米一升、みりん一升」という昔ながらの仕込み方法で造っています。

私たちのみりんは、お米が収穫できなくなると造ることができなくなります。収穫物としてだけでなく、春の田植えや、秋の収穫など田んぼの移り変わりや風景を丸ごと守っていきたいと思っています。そのため、次の世代に田んぼの緑や農業を保全していく活動も継続してすすめていこうと考えています。

家庭もあると聞きます。今後は「生活クラブ親生会」の他生産者ともコラボして、おいしいレシピ提案をしていきたいです。本社のキッチンスタジオや各生協での生産者交流会などで調理のデモンストレーションをして、普段はみりん風調味料を使っている人にもみりんの魅力を知ってもらい、裾野を広げたいです。そして、伝統的なみりんづくりを守り続け、醸造文化を次の世代につないでいきたいです。

照り焼きのおすすめの割合

醤油：みりん＝1：1
砂糖を入れなくても甘みがありおいしいです。

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

261号1面「Rびんを通した新たな出会い」を読んで

泉州地域 Aさん

子どもの頃ビールやジュースが入ったびんが身近にありました。でも、いつの間にかいろんなものがプラスチック容器に置き換わっています。今回のインタビュー記事を読んで、びん容器を使って洗ってまた使うというサイクルの良さに改めて気づかされました。Rびん消費材を利用して、ゴミと二酸化炭素を削減したいと思います。

261号2面「使ったあとのことを考えて消費する」を読んで

泉北ニュータウン地域 Nさん

昔からRびんを利用しています。生協には循環する良いシステムがあるのに、市販の製品はプラスチック容器が多いです。プラスチックの利便性だけでなく、有害なことも知ってほしいです。生協以外にも、このような仕組みが増えたらいいと思います。しかし、Rびんの中にラベルがはがしにくいものがあります。どうにかならないでしょうか。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

●お名前

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
263号(2024.12.16)